

強者の戦略

【しっかり教科書を読み込めたら大丈夫です】

こんにちは、なかなか痩せない北林です。夜に炭水化物を控える生活を今後も続けていきます。はい。

ではまじめな話に…。来月くらいには「強者の戦略」2013年版が手元にわたると思いますが、合格者の点数をよく見てくださいね。傾斜配点などでセンターの点数が圧縮されます。つまり小数点第何位、というレベルで勝負しているんですよ。0.1点足りなくても受験は不合格になります。シビアな戦いをしています。先日の研伸館センター模試やその他マーク模試、結果はどうでしたか？しょうもないミスはしていませんか？知識をつけることはもちろん大切です。圧倒的な実力で勝ちに行きましょう。そしてミスは最小限にするようにこころがけてくださいね。

6月に入り、いよいよプレサマーフェスタがはじまります。もうここから頭の中は受験モードにしてくださいね。どんな講座があるかは研伸館ホームページをご覧ください。

→こちらから <http://www.kenshinkan.net/event/Pre-Summer2013/>

《ワンポイントアドバイス》

さて、問題を確認しましょう。2013年の京都大学の問題でした。

19世紀以来、イスラーム世界の改革を目指した様々な運動、なかでも「イスラーム復興主義」と呼ばれる立場において、しばしばムスリムが立ち戻るべき理想社会とみなされたのが、預言者ムハンマドの時代およびそれに続く「正統カリフ時代」のウンマ(イスラーム共同体)であった。しかし実際には661年にウマイヤ朝が成立するまでの間、さまざまな出来事を経てウンマのあり方は大きく変化した。ウンマ成立の経緯および「正統カリフ時代」にウンマに生じた主要な政治的事件とその結果について、以下のキーワードをすべて用いて300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

ヒジュラ

カリフ

シーア派

《ワンポイントアドバイス》

問われていることを確認しましょう。いたってシンプルです。

- ・ウンマ成立の経緯
- ・および「正統カリフ時代」にウンマに生じた主要な政治的事件とその結果について

今回の問題はしっかり教科書の熟読ができていればすんなり答えられるのではないかと思います。まず、ウンマの成立の経緯についてです。イスラームという宗教をメッカで始めたムハンマドですが、多神教だったところに一神教を徹底させようとするわけですから当然反発がきます。自分の一族であるクライシュ族からも迫害を受け、メディナに逃げてイスラームの共同体ウンマを形成します。この一連の出来事をヒジュラ(聖

強者の戦略

遷)といいます。この西暦622年がイスラームの暦の元年になるわけですね。指定語句にもヒジュラがありますので、ここまでは大丈夫でしょう。

もう一つの問いである「正統カリフ時代」にウンマに生じた主要な政治的事件とその結果、ですが、簡単にあげていくと、3つほどあがります。

まず、ムハンマドが死んでいるからリーダーを選ばなくてはならない。ここでリーダーは選出されます。選挙で選ばれるんですね。「正統」カリフ、といわれるゆえんです(ウマイヤ朝以降は世襲です。だから王朝の扱いになります。ウマイヤ「朝」、アッバース「朝」、など)。

そして、それまでアラビア半島だけだったのが、どんどんイスラームの共同体(ウンマ)=イスラームの国家は拡大します。いわゆるジハード(聖戦)をどんどんおこなっていくんですね。

3つめですが、指定語句にシーア派、という語句があるから、アリーに触れないといけません。正統カリフの第4代目のアリーはムハンマドのいとこで、妻のファーティマはムハンマドの娘。血統的には申し分ありません。ところが実力者であるシリア総督のムアーウィアと対立し、その最中、過激派であるハワーリジュ派によって暗殺されます。その後はムアーウィア、そしてその子孫がイスラーム世界をひっぱるわけですが(ウマイヤ朝)、ウマイヤ家がカリフの位を世襲することになると、アリーの血統を正統とする人々との間に対立が生じ、それがシーア派となるわけです。

さて、ざっと流れをおさえてみましたが、どうでしょうか。教科書をじーっくりみたら今回の問題はむずかしくありません。今後受験までの間、教科書の熟読は欠かさないようにしてくださいね。それでは添削希望の方、待っております。

ちなみにカリフの特徴が時代によって違う問題はよく問われるんですが、東大で2004年には120字で問われています。7世紀と11世紀のカリフの特徴の違いです。確認しておいてくださいね。

《解答例》

ムハンマドは多神教にかわり一神教のイスラームを始めたが、富の独占を批判してメッカの大商人たちに迫害され、メッカからメディナへ移住し、ウンマを建設した。これをヒジュラという。その後アラビア半島全域を影響下においたムハンマドの死後、ウンマの合意で政治的指導者カリフが選出され、ジハードが行われた。東ローマからシリアやエジプトを奪い、ササン朝領を征服し大帝国を建てたアラブ人のムスリム共同体は、アラブ人が支配者の諸民族・諸宗教を含む大帝国に変化した。領土拡大に伴いカリフ権が強まると内部対立が起こり、第4代カリフのアリーはムアーウィアと対立したが、この対立が後にアリーの子孫を正統とするシーア派を生んだ。(299字)